

福祉のひろば

特集 2013年 新たに職員を迎える
福祉現場の今と明日のために

4

2013

光永 了円・向 幸子・山本 政幸
金田 喜弘・仲野 智・中田 進

〈新連載〉 いっぼいっぼの挑戦—沖縄からの発信



ひろばトーク おおだん たけこ
介護者養成講座講師 **大段 武子さん**

職場での壁は“扉”に——悩み、学び、語り合い、ともに歩もう

編集 総合社会福祉研究所

住む人・使う人が主人公！

私たちは住む人・使う人の
立場に立って設計しています。
お気軽にご相談下さい。

京都建築事務所

〒 604-8083

京都市中京区三条柳馬場東入中之町10

代表取締役社長 川下 晃正

TEL (075) 211-7277

FAX (075) 211-7270

<http://www.kyoto-archi.co.jp/>

あなたも 会員になりませんか！

総合社会福祉研究所は
会員制民間研究団体です。

総合社会福祉研究所は、

国民生活や社会福祉労働の視点からの研究活動と、
人権としての社会福祉理論の発展に貢献するため、
社会福祉関係者の手で1988年に設立されました。

教育・研究の現場から、社会福祉活動・実践の現場から、
私たちの社会福祉研究を一緒に積み重ねていきましょう！



【主な活動】 ■ 「社会福祉研究交流集会」の開催（2013年度は8月31日～9月1日の予定）

■ 「社会科学・社会福祉基礎講座」（6月開講予定）など各種講座・研究会の開催

■ メールングリストで全国の会員相互の交流

■ 月刊誌「福祉のひろば」編集、研究紀要「総合社会福祉研究」編集・発行など

【年会費】 ★会費に「福祉のひろば」の誌代が含まれており、毎月「ひろば」を送付します。

個人会員 9,100円 団体会員 10 12,000円 賛助会員 10,000円

申し込み・問い合わせ先

総合社会福祉研究所

〒543-0055 大阪市天王寺区悲田院町8-12 TEL 06-6779-4894 FAX 06-6779-4895
<http://www.sosyaken.jp/> E-mail: mail@sosyaken.jp

ひとりひとりが
きらきら輝ける
一日を大切に
くつろげる場を
——「はびきの園」の仲間の活動——

週1回、年間を通して、施設から車で20分ほどの奈良県なご當麻町にある「二上山にじょうざんふるさと公園ふたかみパーク」に向かいます。「自然というゆったりとした環境の中で気持ちを開放すること」、「小さな集団の中で職員・仲間同士の関係づくりをすること」が大きなねらいだと、職員の原田朋子さんは言います。456段もある急な石段を上がるのは、相当な根気と体力勝負。



にぎやかな集団の中ではしんどい仲間が、この散歩ではリラックスして笑顔がこぼれます。いつも遠巻きに他の仲間の様子を見ていることの多い仲間が、時折振り返り、みんなが来ているか確認し、また一步、歩みを進めます。(原田さん談)



上りきったその顔には、当然というような雰囲気があるながらも、満足感があるように見えました。頂上でお茶を飲んで少し休憩。でも、ゆっくり休む暇はありません。下り道は緩やかな山道ですが、滑ります。仲間と手を取り合って下る人、ひとりで下る人。Nさんは上りと同じように石や土や木々の彩りに魅力を感じ、それらにさわりながら下りていきます。散歩の取り組みは、仲間ひとりひとりが生き生きとしている姿に出会える大切な時間です。



ふたかみ福祉会（大阪府^{はびきの}羽曳野市）は1987年の秋、養護学校卒業を目前にした重複障害のある子どもの「働きたい、友だちがほしい」という願いを実現しようと、親たちの働きかけで月1回の日曜作業所を開始し、その後共同作業所を開所。1996年に社会福祉法人として認可設立しました。当初は知的障害者授産施設（通所）「はびきの園」（定員30名）からのスタートでした。周辺にはブドウ畑が広がり、自然と季節とともにある施設です。（写真・文 下野祇園）

【ひろばトーク】

職場での壁は“扉”に

—悩み、学び、語り合い、ともに歩もう

大段 武子 6

福祉のひろば

2013年4月号

●特集● 2013年 新たに職員を迎える 福祉現場の今と明日のために

私たちの迎え入れ方—職員は福祉会の「財産」	光永 了円	10
福祉現場ではどのような世代が入職してきているのか	向 幸子	14
学生の熱意に向き合い、職場も元気になる採用活動を	山本 政幸	19
想いと願いを持つ社会福祉専門職が育つ環境づくり	金田 喜弘	23
働きつつけられる職場を一緒に作りましょう	仲野 智	28
働きはじめたみなさんへ		
社会福祉の現場でともに成長を	中田 進	32

●トピックス●

福祉人材確保の動向〈大阪〉	島村 一弘	38
—国・自治体の責任で抜本的な人材不足対策を		
「雇用の安定」につながるのか	濱畑 芳和	42
—労働契約法「改正」が福祉現場に及ぼす影響		
八尾市知的障害児・者のくらし実態調査	田槇 公典	46
「第4回 ひろばセミナー」を開催しました		75

●連載●

フォーラム	福井 典子	52
こぞって「身をさらす」活動に打って出よう!		
ひとつのこと—社会福祉労働と私たちの実践	すみれ共同作業所	54
楽しむことの大切さを忘れずに—郊外レクリエーション		
連載 小川政亮 第二部 自伝(13)	小川 政亮	56
公的責任の転嫁を許さず—藤木訴訟、そして私事だが		
相談室の窓から	青木 道忠	60
自分の力を発揮する		
わらじ医者 早川一光の「よろず診療所日誌」	早川 一光	62
不思議、ふしぎ、人間のつくり(その16)		
育つ風景 学童保育のいま	清水 玲子	64
いっばいっばいの挑戦【新連載】	繁澤 多美	66
「生きる権利」を支える場として		
映画案内 『ある海辺の詩人—小さなヴェニスで』	吉村 英夫	68
現代の貧困を訪ねて 92歳の野宿者	生田 武志	70
いただきます!【新連載】	小山みちる	72
ほかほかほっこり 肉まん		
ホームレスから日本を見れば	ありむら潜	74
花咲け!男やもめ	川口モトコ	76

●表紙の絵と写真●
絵=神門やす子



●カット●
川本 浩

みんなのポスト 50/今月の本棚 77/福祉の動き 78

●グラビア● 「はびきの園」の仲間の活動

職場での壁は“扉”に —悩み、学び、語り合い、 ともに歩もう—

おおだん 大段
たけこ 武子さん
介護者養成講座講師

学びを終え、さあこれから仕事。働く夢は大きくて、自分には何でもできそうで、可能性をいっぱい含み、自信に満ちていたように思います。保育所で働きはじめたときも、四〇歳を過ぎて特別養護老人ホームで働きはじめたときもそうでした。

ところが全然うまくいかない。落ち込んで、泣き泣き帰る日がある。便で体じゅうが臭うこともあったし、主任にみんなの前で叱りつけられて、へこんでしまうことも。「まじがっている」とチームの中で強く指摘されることもあり、「ああ、もう私はダメなのかも……」と思う日もありました。

眠りこけて六つ先の駅まで乗り過ぎた夜勤明けの帰り道、とつぷりと暮れた夜道、疲れきった体で「明日は職場を辞めよう」と思い詰めた日が何度もありました。グチャグチャに、怒りとも失望ともつかない、なぐり書きの大学ノートが何冊もあります。

でも、そんな日ばかりではありません。私にも心許す仲間ができ、思いのたけをしゃべりあうことができる、それでいっになく元気になり、はしゃいだりする日がありました。また、専門書や数々の本を手三三晩読み続けていたら、もりもりと体の底から力が湧いてきたこともありました。

チームの中では、自分が傷つくこともありましたが、学ぶことも多くありました。労働組合のたたかいの中でも、みんなが一つになれ、力を寄せ合う喜びも味わいました。

「私たちも人並みの暮らしがほしい」「せめて公務員並みの賃金を」「人を増やし、その中で良い仕事がしたい」——切実な要求でした。その実現に向かって力を合わせて運動を



おおだん たけこ

1942年兵庫県生まれ。保育所、特別養護老人ホーム、在宅ケア・居宅介護支援事業で活躍。母親運動にも取り組む。神戸在住中に阪神淡路大震災に遭い、大阪に転居。現在、介護者養成講座講師。著書に『福祉、ここに生きる—痴呆性老人とのふれあいのなかで』（1996年、萌文社）、『続・福祉ここに生きる——はたらきつづけたい 良いしごとがしたい』（2012年、同）。

展開しました。そして、「いったいこの日本は、社会は、政治はどうなっているんだろう」と県下、近畿、そして全国の仲間と出会い、学習し、真剣に考え合ったことは、その後の自分の仕事と生き方の大きな支えとなつていきます。

市や府・県、国にたくさんの要求を提案したり福祉前進のための活動をするこも、福祉現場の大切な仕事です。利用される人たちが「幸せだ」「生きていてよかつた」と思えるような、そんな職場づくりをしていきたい。その歩みは遅々としているようでも、不可能ではないと思つていきます。

「いつでも首切りができ、低賃金でもよい」と財界の都合のよい法律になつた昨今、働く者は貧しさやつらさを抱えながら暮らすことを余儀なくされています。こんな世の中ではないはずがありません。世の中を見据え、事の本質を見抜く力と智慧を持つて、生き抜かなくてはと思ひます。

悩み多き私たちですが、大切な子らを、病氣や障害を抱えたり老いを生きる人たちを、支えようと傍そばにいるだけで大きな意味があります。笑顔が生まれ、温かい手がある。それだけでも大きな価値があるのだと思ひます。

みなさんが福祉の仕事を選ばれ、本当に嬉しく思ひます。福祉の学問は深く、人に寄り添うためには学ぶことが山ほどあります。楽しさや喜びも山とあります。一人前の働き手となるには時間が必要ですが、応援してくれる人はいっぱいいます。ともに歩んでいきましよう。



特

集

2013年 新たに職員を迎える 福祉現場の 今と明日のために

福祉現場の今と明日を担う人たちの採用と育成の課題は大きく変化してきています。毎年四月号では、新たに福祉現場で働く人たちへのメッセージを発信してきました。しかし、本誌読者の多くは、新たに採用される人々ではなく、迎える側の人々です。そこで今回の特集では、入職者がどのような教育や時代の影響を受け、何を背負ってきたのか、また福祉現場での採用のあり方が大きく変化しはじめているのはなぜか、等を考えます。そこには、当事者家族や地域住民等からの社会福祉事業の現場に期待する声が込められています。また、福祉現場で働く先輩たちは、そこで行われている、拘こたわっている、担かかっていることを、ともに働き、さまざまな場を通して語りかけています。しかし、自分たちが体験してきたことや感動してきたこと、拘こたわっていることを後輩に伝えるのは並大抵なことではありません。多くの現場では、この課題に向き合いながら、苦闘くとうし続けています。